平成 23 年 7 月 28 日

各　　位

会 社 名　フューチャーアーキテクト株式会社
代表者名　代表取締役会長兼社長　金丸　恭文
（コード番号 4722、東証第一部　）
問合せ先　執行役員　　中島　由彦
（ＴＥＬ　(03)　5740　－　5724 ）

平成 23 年 12 月期第２四半期連結業績（累計）のお知らせ

１．平成23年12月期第２四半期連結業績（累計）について：

当社グループの平成23年12月期第２四半期累計（平成23年１月１日～平成23年６月30日）の**連結売上高は117億68百万円**（前年同期比7.6％増）、**同営業利益は16億29百万円**（同50.9％増）、**同経常利益は17億11百万円**（同49.2％増）、**同四半期純利益**は**10億73百万円**（同102.8％増）となりました。このため、前回発表の第２四半期累計の業績予想と比較して、連結売上高と同営業利益ではわずかに下回りましたが、同経常利益と同四半期純利益では上回ることができました。

当該期の各事業分野の特記事項は次の通りです。

ＩＴコンサルティング事業は、カットオーバーを間近に控え、開発がピークを迎えた大型プロジェクトが多かったものの、いずれのプロジェクトも順調に進捗いたしました。また、コンサルタントの稼働率も前年同期に比べ高い状態で推移しました。その結果、売上高は74億13百万円（前年同期比8.8％増）、営業利益は14億50百万円（同25.0％増）となりました。なお、システム導入に伴うハードウェア等外部調達品を除いたコンサルティングサービスのみの売上高は、前年同期比19.9％増となっております。

パッケージ＆サービス事業は、株式会社アセンディアが昨年に引き続き順調に推移したことに加え、第１四半期に落ち込んでいたＦｕｔｕｒｅＯｎｅ株式会社も第２四半期は回復したことにより、売上高は21億93百万円（前年同期比15.7％増）、営業利益は１億20百万円（前年同期は65百万円の損失）となりました。

企業活性化事業については、食品スーパー（株式会社魚栄商店）において、ＩＴの利活用による、的確な販売戦略の実行や適正な在庫管理が定着し、粗利率が前年同期の22.5％から23.8％に改善しました。さらに、効率的な広告戦略による販促費のコントロールにより、販管費が減少したことにより、売上高は23億24百万円（前年同期比3.0％増）、営業利益は47百万円（前年同期は０百万円の損失）と、第２四半期累計では初の営業黒字を達成しました。

なお、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、平成23年

12月期第１四半期より、企業活性化事業の対象を株式会社魚栄商店のみとする変更等を行っており、前年同期比は、前第２四半期累計の数値をセグメント変更後の数値に組み替えた上で比較を行っております。詳細は、本日発表の平成23年12月期第２四半期決算短信11～13ページ「セグメント情報等」をご参照ください。

当第２四半期中には、東南アジアで事業を推進するためにシンガポールに地域統括子会社としてFuture Global Pte. Ltd.を設立し、その下にNorth Consulting Group Pte. Ltd.（以下、NCG）を設立しました。NCGはＥＲＰ導入などのＩＴコンサルティング事業をシンガポールを中心に行っていく予定であり、現在は本格的な営業開始に向け準備を進めております。

２．今後の見通しについて：

東日本大震災及び原子力発電所の事故並びに電力供給不足が今後の日本経済や企業活動に与える影響は、未だ予測することは困難でありますが、当社グループおいては震災等の影響による既存プロジェクトの延期や中止等は軽微にとどまっており、また、当面は電力不足が当社グループの業務に大きな支障を及ぼさないと考えております。さらに、第２四半期（累計）の業績がほぼ予定どおりの結果となったことや引き続き案件の引き合いも堅調であることから、平成23年12月期の通期業績予想につきましては、前回発表（平成23年４月26日付）の業績予想からの変更はございません。

当社グループの今後の課題につきましては、次のように捉えております。

ＩＴコンサルティング事業については、大型プロジェクトをはじめとする、カットオーバーが予定されているプロジェクトについて、確実なデリバリーに努めながら、既存顧客や今期に新規に契約をいただいた顧客との信頼関係を強化し、追加プロジェクトの受注を獲得することや、現在提案活動を行っている新規顧客から来期以降にも繋がっていくプロジェクトを受注していくことに注力してまいります。

パッケージ＆サービス事業については、ＦｕｔｕｒｅＯｎｅ株式会社において新体制の下で、これまでのソリューションを強化・集約した統合ブランド「ＦＵＴＵＲＥＯＮＥ」シリーズの営業活動を進めているほか、ユーザーへの直接営業の強化、新規販売チャネル開拓を実施しており、今後その成果が現れてくるものと考えております。株式会社アセンディアにおいては景気変動に強い保守・運用サービスを強化するとともに、外注先の見直しや社員の技術力の向上により、顧客との信頼をより深めるよう図ってまいります。また、企業活性化事業については、粗利益率の向上や在庫の管理に一定の効果が出ている自動発注システム・ＥＤＩシステム等の利活用を継続するほか、ポイントカードによる顧客分析の強化等、売上高増加に向けたＩＴの利活用にも注力してまいります。

３．中間配当について：

株主の皆様への分配機会を増加させるため、従前と配当方法を変更し、中間配当を実施することを平成23年２月８日開催の当社取締役会にて決議し、同日付で発表いたしました。当第２四半期累計の連結四半期純利益については、先述のとおり業績予想を上回ることができましたので、当初の予定どおり、平成23年６月30日を基準日として、１株当たり750円の中間配当を実施いたします。

以 上

●本件に関するお問い合わせ先：
フューチャーアーキテクト株式会社　IR 担当　池内
IR 直通　Tel： 03-5740-5724　電子メール：ir@future.co.jp